

小森 貴大 (福井/111期)

2月静岡記念で落車した後は、予選を乗り切れない場所が続いたが、4月川崎記念で決勝進出すると、5月岸和田は3連勝、同月函館記念2②⑤①着など連対ラッシュ。全プロ記念競輪でも最終日に勝っている。機動力が甦り自力攻撃が冴え渡っている。



橋本 優己 (岐阜/117期)

4月別府では単騎ながら好位キープからまくってS級初Vを達成。その後も5月松阪1①⑤着、同月川崎1②③着と決勝に乗っていて、先行でもまくりで力を発揮できている。一次予選は主力になるし、上位クラスと対戦する二次予選でも好勝負が期待できる。



山根 将太 (岡山/119期)

豊かなスピードを生かした快速先行で売り出し中。5月函館記念2⑤④②着は、やや末脚を欠いて勝ち星は挙げられなかったものの積極的に駆けていた。3月玉野記念では準決で逃げて2着に粘った実績があるので、上位戦でも先行力を遺憾なく発揮できれば怖い。

レインボーカップチャレンジファイナル

モチベーションが高い窪木一茂

出場予定選手詳細 ※2022年6月14日現在

選手名	所属	身長	年齢	期数	最近12場所成績	総合評価
松本憲斗	熊本	177cm	25	119期	177cm79	53
北川大成	京都	176cm	25	119期	176cm77	55
徳田匠	愛知	164cm	21	119期	164cm64	53
佐藤竜太	愛知	175cm	23	119期	175cm78	55
牛田樹希斗	静岡	176cm	29	119期	176cm80	55
深瀬泰我	福島	172cm	33	119期	172cm75	47
窪木一茂	福島	171cm	23	119期	171cm71	53
大高彰馬	宮城	177cm	28	119期	177cm85	54
上遠野拓馬	宮城	177cm	28	119期	177cm85	54

出場が予定されていた石塚慶一郎、邊見光輝は先に特班を決めて不在に。代わって補充だった松本憲斗、北川大成の熊本コンビが繰り上がりで出場を果たす。メンバーが入れ替わって来期もチャレンジなのは窪木一茂だけとなった。7月以降は121期の新人との対戦が続くし、中距離ナショナルチームのメンバーとしても活動している。少ないチャンスを生かして特班を決めたいという気持ちは誰よりも強いだろう。本命に推すには最も相応しいとみる。モチベーションの高さだけでなく窪木にはV条件がそろっている。競技ではネイションズカップのマディソンで日本人初の銀メダルを獲得し、本業の成績も今年4走で完全V2回、1①②着が2回と充実の近況。前期も競技との兼ね合いで競走本数が少ない中で失格があつて2班の点数が取れなかっただけなので実力は抜けている。自力でもV十



窪木 一茂



徳田 匠

分だが、今年は完全Vが3回ある大高彰馬が前回りを買って出よう。前回のレインボーでも平山優の番手を回りながらチャンスを生かせず2着失格に終わった悔しさはここで晴らす。今期は完全Vが6回ある上遠野拓馬を含めた北勢がV争いの中心だ。他地区勢は、それぞれ個の戦いの可能性が高いのでは。熊本の2人は過去のレースでは別で戦っているし、愛知両者は本デビュー以降は同じレースを走っていないので流動的だが、ともに徹底先行で売っている。ただ、地区単騎の深瀬泰我、徳田匠も含めて脚力的にはほぼ互角で、組み立て次第で誰が台頭してきても不思議ない。中ではレース巧者で在り順位も上位だった徳田を最も高く評価したいが、この直前のレースで特班している可能性がある。徳田以外となると、通算7Vの松本も2回特班に挑んだ実績があり、時折りあるポカが出なければ怖い存在だ。